

保証書

この製品は優れた技術と品質管理によって製造されております。
万一 保証期間中に発生した不具合に対し、下記規定に基づいて保証をさせていただきます。

品 名 無煙薪ストーブ

型 式 MD80III

保 証 期 間 お買上げ日より 1 年間

お買上げ日 年 月 日

※お買上げ日の証明になりますので
送り状との保管をお願い致します。

お 客 様	ご芳名
	ご住所 お電話 ()
販売店名・住所・電話番号	

㊞

- 取扱説明書に基づいた正常な使用により、万一材質上または製造上の不具合が生じた場合は、本保証書により無償で新品と交換、又は修理致します。
ただし以下の理由、又はこれに準ずる理由により生じた故障については、保証は適用されません。
 - 取扱い上の不注意・誤った使用方法・保存上の不備による破損。
 - 天災・地変によって原型を失ったもの。
 - 弊社の指定した事業所以外で行われた修理・改造による破損。
 - 本来の使用目的以外に使用して破損したもの。
 - 使用に伴う部品の消耗は保証が適用されません。
- 運賃諸経費は原則としてお客様にてご負担願います。（製造上の不具合は除く）
- 使用中に発生した故障以外に起因する付随的傷害については保証致しません。
- 保証の適用されない故障・保証期間後の故障は、有償修理致します。
- 本証は再発行致しません。

お客様へお願い

※ 下記の場合は返品できません。

①一度使用したもの ②納入後 2 週間経過した場合 ③故意又は過失により生じた損傷品

202203

地球にやさしく

プラスチックゴミを燃やすと
黒煙とダイオキシンが発生するので
ゴミステーションに出しましょう

株式会社 **モ丰製作所**

長野県千曲市内川 96

TEL (026) 275 2116

FAX (026) 275 2169



アンケートへご協力をお願いいたします

ご回答いただいた方の中から抽選で 10 名様へ
QUO カード 2000 円分をプレゼントいたします。

アンケートはこちら

<https://forms.gle/Ug9uDTaGjvCyCugk7>



MOKI®

燃焼哲学®

無煙薪ストーブ

MD80 III

取扱説明書

日本 ドイツ アメリカ 中国 特許
文部科学大臣奨励賞受賞



MD80 III

この度は、MOKI 薪ストーブ燃焼哲学をお買上げ頂き誠にありがとうございます。
快適で安全にお使い頂く為に、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読み下さい。
なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでもご覧頂ける場所に保管して下さい。

1. 安全上のご注意

2. 各部名称・仕様

3. 使用方法

（着火方法・燃やし方・消火方法・灰取り）

4. 煙突掃除

5. 茂木プレート交換方法

6. 消耗部品交換方法

7.Q&A

☆保証書

木資源の燃料化

株式会社 **モ丰製作所**

1. 安全上のご注意

※ご使用前のお願い

初めて火を入れる際は、塗料が焼き付きストーブ表面から煙が出ますが不具合では御座いません。

煙と共に臭いが発生しますので、屋外で事前に焼き付ける事をお勧めします。

(目安：表面温度 350℃ 焼き付け時間 2 ～ 3 時間)

屋内設置後に焼き付ける場合は、十分に換気をして下さい。

※弊社ストーブは品質向上の為、出荷前に塗装の焼き付けを行っておりますが
完全に焼き付くまでの間、煙は出ますのでご了承下さい。

⚠ 警告 死亡や負傷を負う恐れのある内容です

- ・本体及び煙突の設置は建築基準法及び消防法に従い、安全に設置して下さい。
- ・異常、故障時は直ちに使用を中止して下さい。(特に、本体及び煙突から炎が出たり破損が見られる場合)
- ・高気密住宅の場合は外気吸気口が必要です。
- ・本体と可燃物は 45 センチ以上離し、しゃ熱板を入れて下さい。
しゃ熱板と可燃物は 3 センチ以上離して下さい。
- ・年に 1 回以上 煙突掃除と点検を行って下さい。
煙突内に 5 ミリの煤やタールが付着した場合は必ず煙突掃除を行って下さい。
そのまま放置しますと煙道火災がおきる可能性が有ります。
- ・緊急に消火した場合、ストーブ内に可燃ガスが充満しますので、
焚口扉はしばらく開けないでください。(特に、本体及び煙突から炎が出たり破損が見られる場合)
- ・万が一火災や地震が発生した際は人命を優先し、初期消火が行える場合は消火器で行ってください。
止むを得ず水を使う場合は、高音の蒸気が噴出し二次的被害が発生する恐れがありますので、
安全な距離から初期消火を試みてください。
- ・焚口扉を全開、または半開で長時間燃やすとストーブ本体が赤くなり危険です。
- ・灰の処理は火の気がない灰を金属容器に 3 日以上入れ、完全冷却した後処分して下さい。
思わぬ火災の原因となります。
- ・着火および燃料としてガソリン・灯油・ガス・アルコール等を絶対に使用しないで下さい。
- ・本体の近くにガソリン・灯油・アルコール・ライターやスプレー缶などを絶対に
置かないで下さい。
- ・本体を不安定な場所に設置しないで下さい。
- ・本体及び煙突に過度な力を与えないで下さい。
- ・火傷の危険があるので、お子様やペットをストーブに近づけないで下さい。
- ・本体を無断で改造しないで下さい。

⚠ 注意 傷害を負う事や、財産の損害が発生する恐れがある内容です

- ・急激な加熱は塗装を傷めることがあるので、最初の火入れは徐々に行ってください。
- ・薪の投入時はレザークラブ（別売品）を使用し、火傷に注意して下さい。
- ・乾いてない薪を使用しないで下さい。煤やタールが煙突に付着します。
- ・ガラスを叩いたり、過度な力を与えないで下さい。破損の恐れがあります。
- ・燃焼中に液体をかけると破損の恐れがあります。
- ・お子様やお年寄り、体のご不自由な方がお使いになる場合は、
火傷などについて周囲の人が注意して下さい。

※変形と酸化の恐れがあります。

本体・煙突を赤くなるような高温で使用しないようご注意ください。

茂木プレートの下で燃やさないで下さい。

お客様からのご質問

Q. 灰が無かった場合の最初の焚き付け方法を教えてください。

A. 灰の代わりに薪の下に段ボールを 2・3 枚敷き詰めて焚き付けて下さい。

Q. 灰取りの頻度はどの程度ですか？

A. 平均的に月 1 回です。

ただし蓄熱材として常に 5cm 以上入れてお使い下さい。

Q. 灰はどのぐらい溜まったら取れば良いですか？

A. 茂木プレート下から 3cm 以下になった時に灰取りを行って下さい。

穴からだけではなく下部の隙間からも空気を取り込むため詰まっていると
不完全燃焼を起こし煙が出ます。

Q. 薪は乾いてさえいれば燃料として使えますか？

A. 乾きすぎている薪も煙が出る要因となります。

切ってから 6～12 ヶ月程度乾かしている薪が適切です。

Q. ストーブの表面が錆びてしまいました。

A. 錆びはワイヤーブラシで落とし、紙やすり(#400 番程度)で仕上げ、
耐熱塗料スプレーを塗付して下さい。

Q. 茂木プレートが熱で湾曲してしまいました。

性能に問題は出ますか？

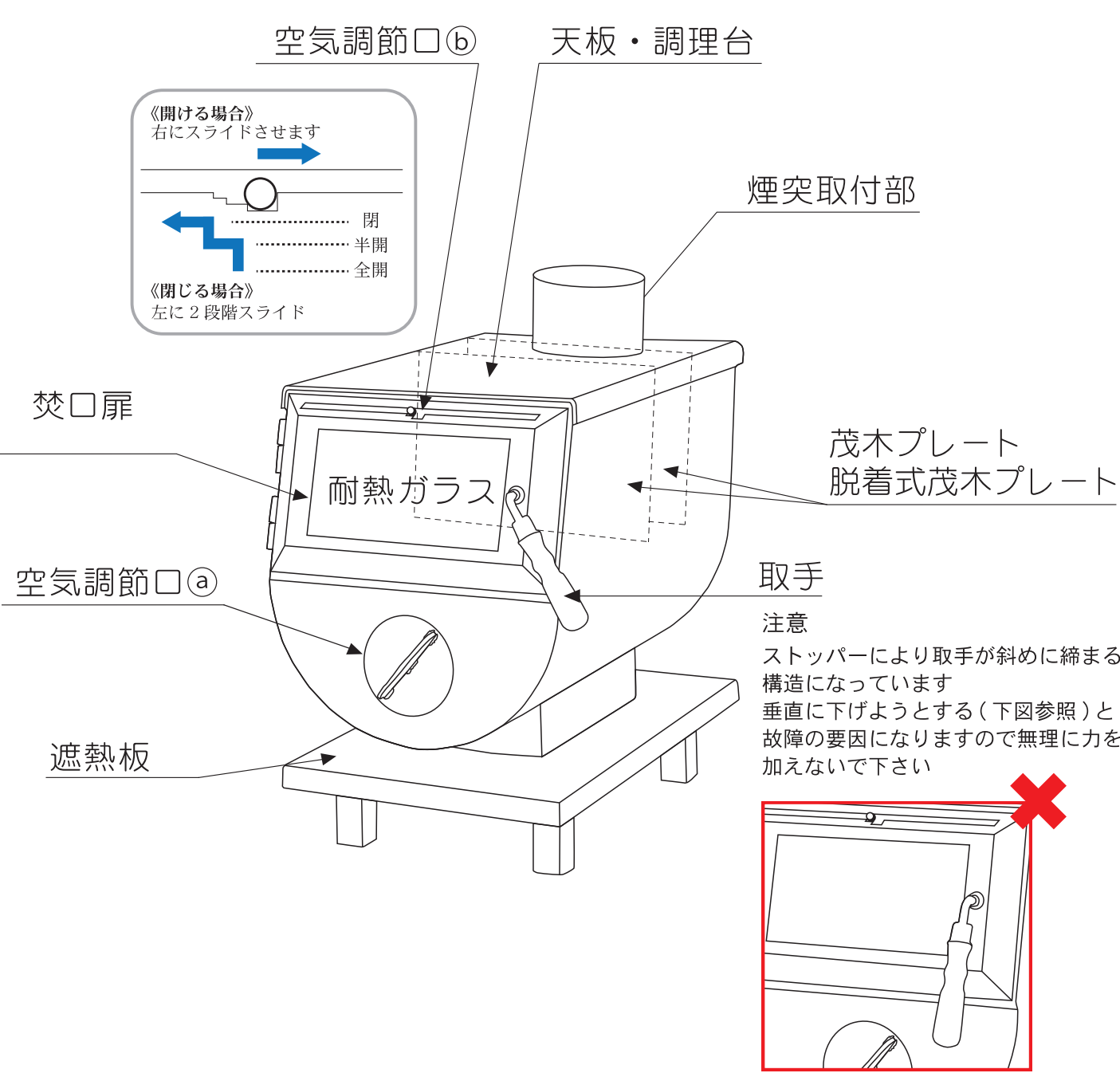
A. 空気の通りが多少変わりますが問題はありません。

ただし本体側が引っ張られて穴が開く可能性があるので一度ご相談下さい。

7.Q&A

こんなとき		原因	対処方法
薪が燃えない		薪の乾燥が不十分	6～12 ヶ月乾かした薪を使用して下さい
		炊き始めから太い薪を使用	焚き付けは細い薪を使うと着火が容易です
		空気調節口が閉じている	空気調節口を開けて下さい
		煙突が煤で詰まっている	煙突の中に煤が5ミリ以上付着の場合は煙突掃除をして下さい
		新聞紙で着火している	ボール紙を沢山使い着火して下さい
煙が逆流する		横引に対し外の立上が短い	横引の長さの1.5倍以上必要です 状況により2倍必要な場合もあります
		薪の量が少ない	薪の量を増やし勢いよく燃やして下さい 空気調節口⑥灰止めメッシュの詰まりを取り除いて下さい
煙が逆流する		手前で着火している	中心より奥で着火して下さい
		煙突が煤で詰まっている	煙突の中に煤が5ミリ以上付着の場合は煙突掃除をして下さい
		煙突トップ付近に上向きの風	煙突を1mほど延ばして下さい
		横引に対し外の立上が短い	横引の長さの1.5倍以上必要です 状況により2倍以上必要な場合もあります
		高気密住宅である	窓を開け空気を取込んで下さい 又は外気導入口を設置して下さい
ストーブが熱くならない		近くで換気扇が廻っている	換気扇を一時止めて下さい
			上記「薪が燃えない」の欄を参照
ストーブが熱くならない		薪の量が少ない(低温燃焼)	薪を増やして下さい
		空気調節口が閉じている	空気調節口を開けて下さい
		空気調節口の開けすぎ 熱が煙突から逃げてしまう	空気調節口を絞って下さい
			上記「薪が燃えない」の欄を参照
煙突先端から灰が舞う		茂木プレート奥で薪が燃焼	茂木プレート前で燃やして下さい
ストーブ表面から煙が出る		塗料が焼ける為です	塗料が完全に焼き付くまでの間 煙は出ますので、換気をして下さい
焚き口から逆火		消火直後に焚き口を開いた	消火後10分は焚き口を開けないで下さい
ガラス付	煤で曇る	低温燃焼(不完全燃焼) または燃焼が奥すぎます	薪の量を増やし勢い良く燃やして下さい ガラス近くで燃やして下さい 空気調節口⑥を開けて下さい
	磨き方	ガラスが冷えている状態の時、クリーナー又は水を絞った布に灰をつけて磨いて下さい	

2. 各部名称



仕 様

形 式	MD80Ⅲ
寸 法	L731×W406×H692 mm
重 量	78kg
最大薪長さ	40cm
煙 突 径	150φ
付 属 品	灰取り

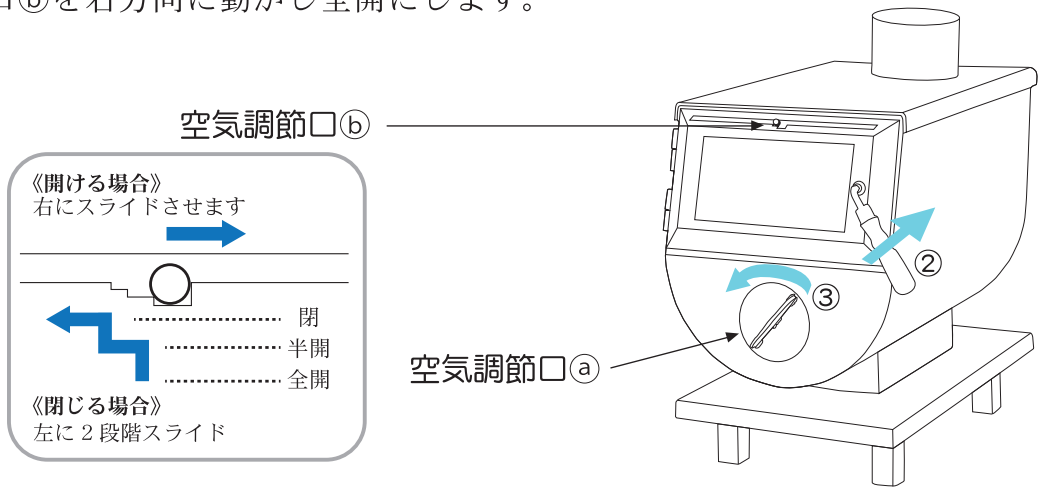
3. 使用方法

3-1, 準備

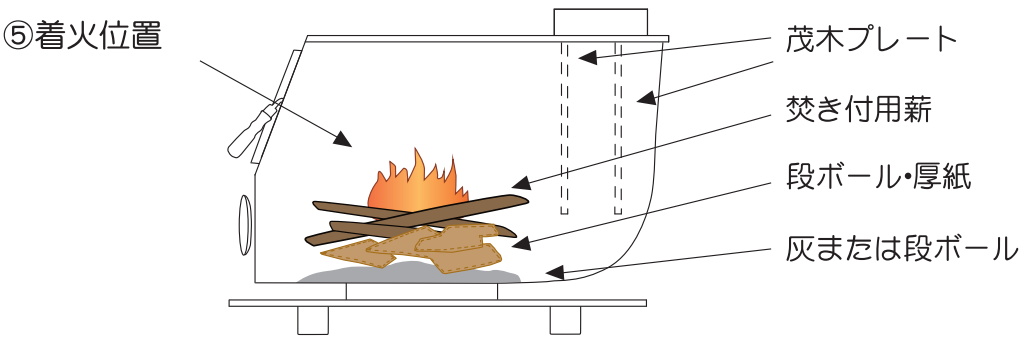
- ※6～12 ヶ月乾かした薪を使用して下さい。（含水率 20% 以下）
- ※初回ご使用時は塗料が焼付く為、本体より煙が発生しますので換気を行って下さい。
- ※初回ご使用時は蓄熱の為 炉内に 5cm 程の灰を敷いて下さい。
灰が無い場合は段ボールを重ねて敷いて下さい。
ただし 茂木プレートの下は 5cm 隙間を開けて下さい。

3-2, 着火 / 燃焼

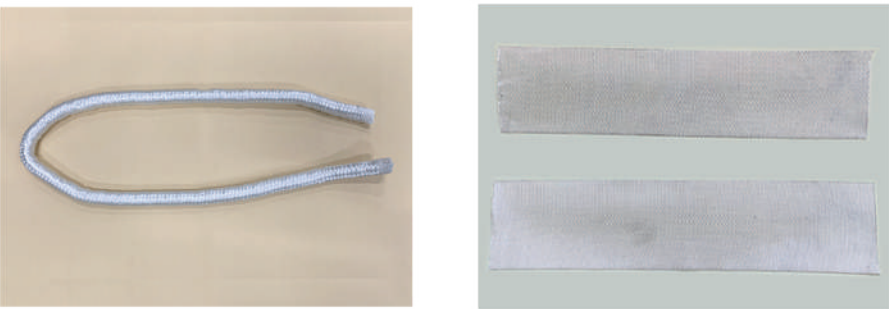
- ①煙突にダンパーが有る場合は全開にします。
- ②取手を右水平にし焚口扉を開けます。
- ③空気調節口③を反時計方向に廻し全開（隙間 2cm 位）にします。
- ④空気調節口④を右方向に動かし全開にします。



- ⑤段ボール紙または厚紙を 20cm 角位に千切り 5～6 枚重ならないように入れます。
- ⑥段ボール紙または厚紙の上に焚付け用の細めの薪を 4 本程載せます。
- ⑦ライターまたはマッチで本体の中心よりやや奥よりに段ボール紙・厚紙を着火します



6-2, 本体用ガスケットロープ交換手順



本体用ガスケットロープ ガラスクロステープ

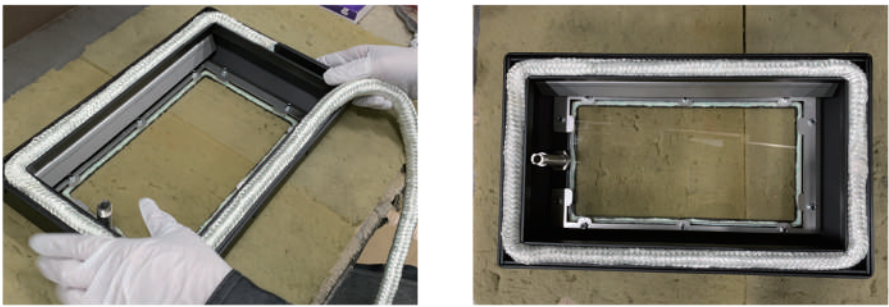
- ①本体用ガスケットロープ（以下「ガスケットロープ」）の片側先端に付属のガラスクロステープを巻きつけテープの中央で切断して下さい。



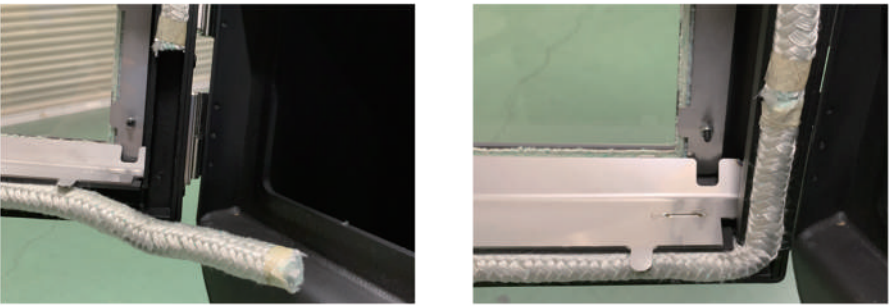
- ②ガラスクロステープを巻きつけた側のガスケットロープの枠に沿って押し込んで下さい。

ご注意

押し込む際は、ガスケットロープを引っ張りすぎないで下さい。
ガスケットロープが馴染んだ時に長さが足りなくなる可能性があります。

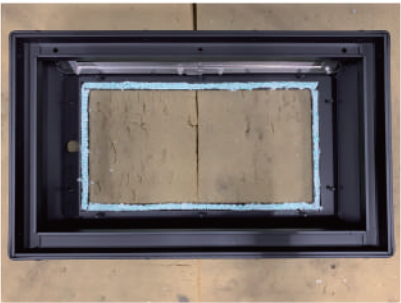


- ③ガスケットロープの長さが決まりましたら、付属のガラスクロステープを巻きつけ少し長めに切断をし、パッキン枠に押し込んで下さい。

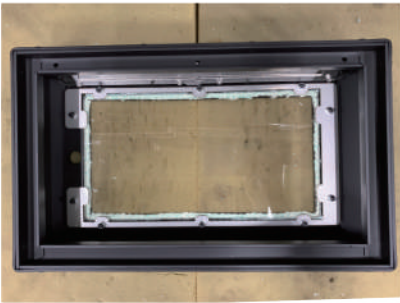


6-1, 耐熱ガラス交換

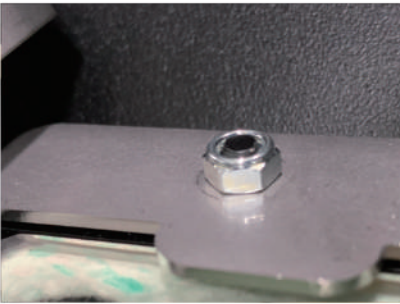
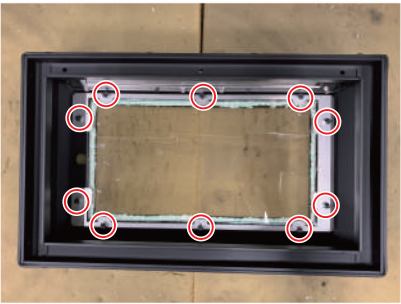
- ①ボンドを塗付、窓ガラス用ガスケットロープを接着します。
ボンドは適量（はみ出さない程度）を均等に塗付して下さい。
ガラスをセットした後にガラス押さえ枠をボルトに通し取り付けます。



G17 のボンドをお勧めします

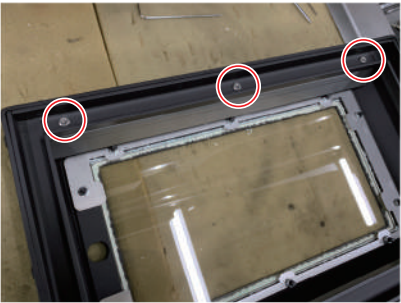


- ②ガラス固定ナットを 10 箇所に取り付け少しずつ均等に締めます。
ボルト先端がナットの面から飛び出ないように、平らになるように締めましょう。



- 推奨工具
・対辺 7 mm ソケットドライバー
・スパナ

- ③整流板をボルトで真ん中→右→左の順番で取り付けます。



- ※ 六角レンチ (2mm) で整流板が動かないよう固定
※ 締め過ぎにご注意ください

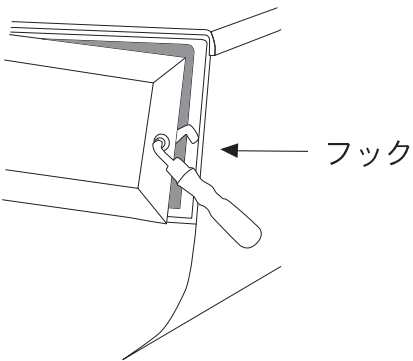
- ④パッキンと灰受けを元に戻し、扉を上から差し込むように取り付けて下さい。



耐熱ガラス交換の有償サービスも承っております。
交換を依頼される際は弊社までご相談ください。

- ⑧焚付け用の薪が燃え出し炎が上がるまで焚口扉は開けておきます。
⑨焚付け用の薪が十分燃えましたら太い薪を入れ、その薪に火が点くまでは
焚口扉を若干開いた状態に保ちます

- ◎ 焚口扉を開いた状態に保つ方法
扉を開け取っ手を下げた状態で
閉じると中のフックが焚口枠に
当たり若干開いた状態になります
（右図）



- ⑩太い薪に火が点きましたら焚口扉を閉め、空気調節口①と薪の量で火力を加減します。

ご注意

- ※急激な加熱は塗装を痛めることがあるので、最初の火入れは徐々に行って下さい。
※焚口扉を全開、または半開で長時間燃やすとストーブ本体が赤くなり危険です。
※空気調節口①②は高温になりやすいので、操作の際はレザーグローブ等をご使用下さい。
※薪 1 本では燃焼温度が上がらず煙発生の原因となります。
必ず 3～4 本入れて下さい。

3-3, 消火

- 薪ストーブは急な消火は出来ません。
消火の 2～3 時間前には薪の投入を止め燃え尽きるようにして下さい。

- ◎緊急に消火が必要な場合
焚口扉と空気調節口をしっかり閉じて下さい。

- ご注意
※水をかけて消すことは本体の変形や故障の原因になりますので絶対にしないで下さい。

3-4, 灰の処理

- ストーブ内には 蓄熱材として必ず灰を 5cm 残して下さい。
付属の灰取りを使用し金属容器に入れ完全に冷えていることを確認後処分して下さい。
灰は有益な加里肥料になります。

4. 煙突掃除

- ・シーズン前に必ず点検を行って下さい。
- ・煙突掃除は年に1回以上行って下さい。
- ・煤やタールは煙突掃除ブラシを通して取り除いて下さい。

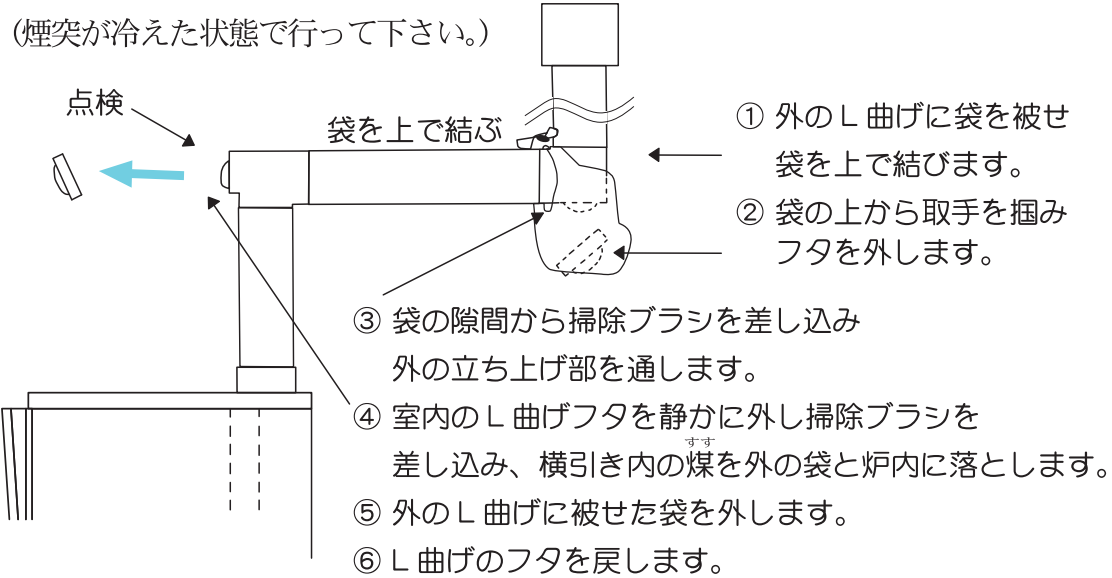
※煙道火災防止の為 煙突内に5ミリの煤やタールが付着しましたら必ず行って下さい。

掃除手順

壁出しの場合

点検方法：取手付きL曲げのフタを取外し、内部を確認します。

掃除方法（煙突が冷えた状態で行って下さい。）



屋根出しの場合

煙突点検口より煙突ブラシを差し込みます。

点検口がない場合は煙突トップを外し上から掃除ブラシを差し込みます。

ご注意

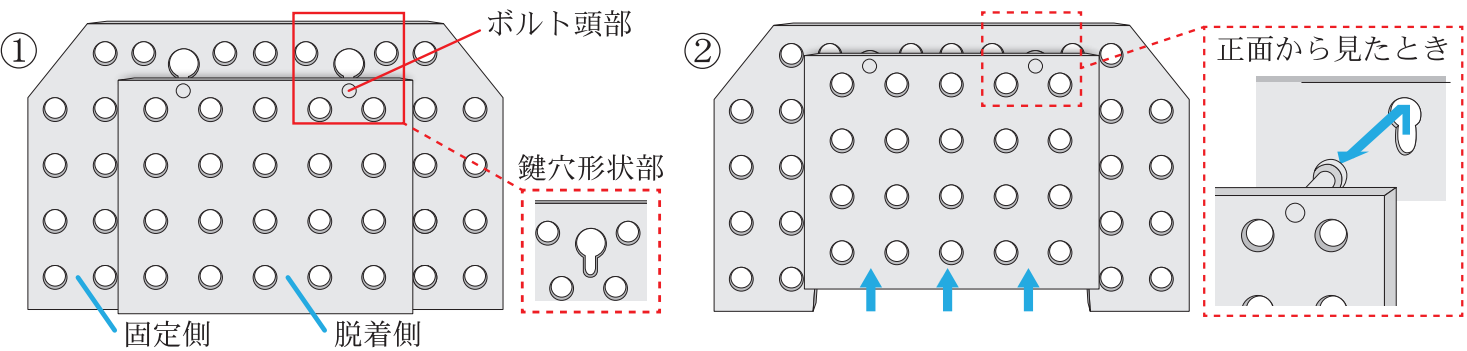
※高所での作業ですので業者に依頼することをお勧めします。

5. 茂木プレート交換方法

5-1, 取り外し

脱着側プレートのボルト頭部が固定側の鍵穴形状部にセットされているので

上に持ちあげて手前に引いて下さい。（ストーブが冷えた状態で行って下さい。）

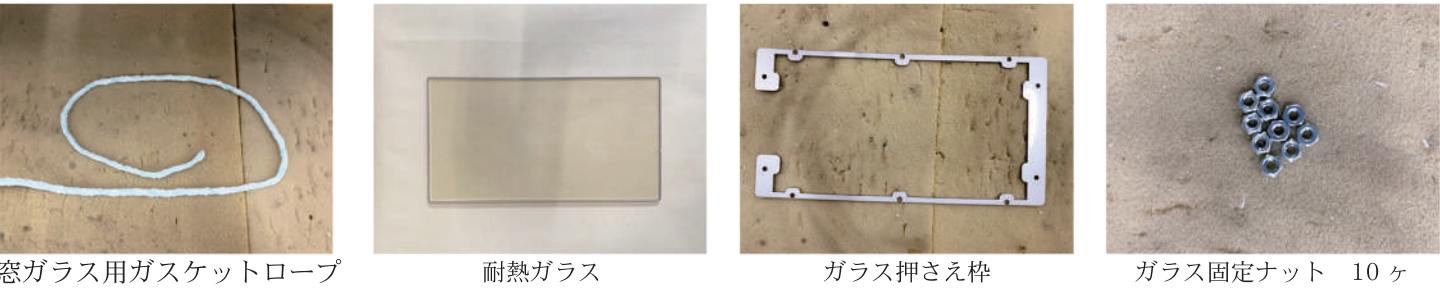


5-2, 取り付け

上記逆手順で行って下さい。

6. 消耗部品交換方法

ガラスが割れてしまった場合、下記の部品が必要になります

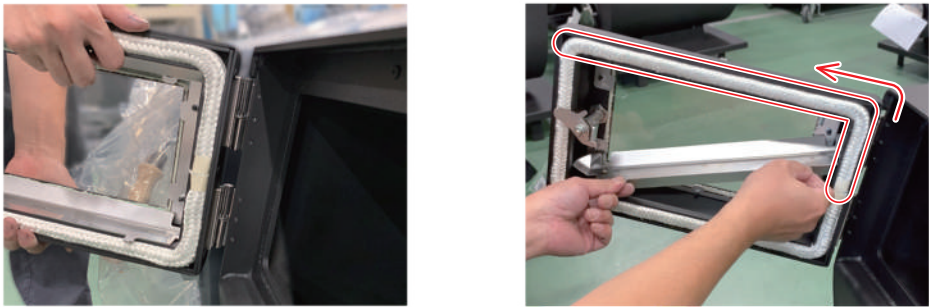


交換の注意事項

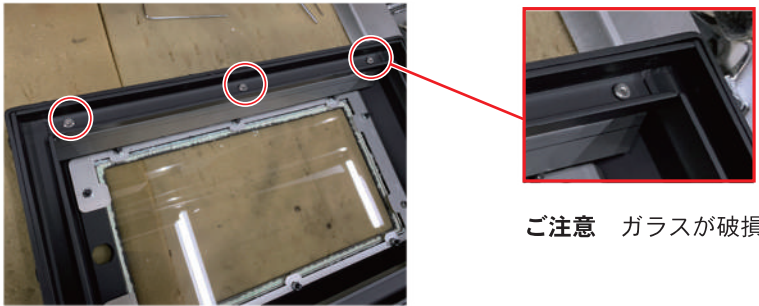
- ① 取り外しの際、蝶番が熱で収縮されて外れにくい事も御座います。
- ② 窓ガラス用ガスケットロープ（以下「ガスケットロープ」）にはグラスファイバーが含まれております。直接触らずビニール手袋や革手袋、マスクを着用し繊維を吸い込まないようにご注意ください。
- ③ ガスケットロープは長めになっていますので長さを合わせて切ってください。
- ④ ガラス取り付けのボルトをきつく締めすぎないようにして下さい。締付時、同じ場所を一気に締めるとガラスが割れてしまう恐れがありますので必ず均等に少しずつ閉めて下さい。ボルトの締め過ぎや均等にしまっていないとガラス割れの原因となります。

耐熱ガラス交換準備

- ・扉を全開の状態に蝶番から持ち上げるように外して下さい。



- ・灰受けを外して本体用ガスケットロープを途中まで外します。
- ・整流板を固定しているボルトを左→右→真ん中の順で外します。



ご注意 ガラスが破損している場合は、お怪我にご注意ください。

- ・ガラス固定ナットとガラス押え棒を取り外します。